

世代を越えた交流に王手! 多賀城将棋ラボ



代表の出原さん。この日は自ら講師を務めました。



大会では年代関係なく、実力の近い人同士が対局します。



出原さんは将棋ラボ以外にも、「ARABAKI ROCK FEST.16」で「ふんばり」のワークショップを行うなど将棋の普及に努めています。

多賀城市内で将棋教室や1日道場を開いている「多賀城将棋ラボ」。代表の出原卓朗さんが「将棋の技術向上のためだけでなく、将棋を通してコミュニケーションや交流ができる場をつくりたい」と考え、2014年11月から開催しています。

5月3日（火・祝）には戦法解説講座と大会があり、小学生から年配の方まで37名の参加者が1日将棋を楽しみました。将棋を指している間はみな真剣ですが、一局終了後に行う対局の振り返りから話が盛り上がることもあるそうです。

「将棋ラボへの参加を通して、将棋が楽しくなったり、参加者同士の交流が続いているのがうれしい」と出原さん。今後、もう少し大きめの大会を多賀城で開催できたら、とも話してくれました。

将棋という共通の趣味で人が集まり、世代を越えた交流ができる貴重な場になっています。

info

連絡先

ブログ <http://tagasho.blogspot.jp/>
メール tagashogi@gmail.com
電話 090-5067-5191（出原さん）

多賀城将棋ラボ

検索

スケジュールなども載っていますよ!

...

参加者声

「将棋を通して、違う学校の友達ができてよかった」 (小6男子)
「今まではインターネットで指していたが、相手を目の前にして対局する楽しさを知った」 (30代女性)
「将棋をやる人が周りにいないので、いつも楽しみにしている」 (50代男性)



ヒント from “たがさぽPress”

たがさぽのブログから地域づくりに役立つ記事をご紹介します

詳しくはブログへ

<http://blog.canpan.info/tagasapo/>

桜が津波を語り継ぐ

2016年4月7日（木）掲載

津波到達地点に桜苗木を植樹することで、津波が来た時の避難目標にするともに東日本大震災の教訓を将来に伝える活動に取り組む2つの団体をご紹介します。

美容サービスを全ての人に

2016年4月21日（木）掲載

「NPO法人そらいろプロジェクト京都」は、美容室になかなか足を運べない高齢者や障がいを持つ子どもの所に出張して髪を切る活動に取り組んでいます。

活動する中で大切なこと

2016年4月28日（木）掲載

今年46回を迎えた「仙合子どもまつり」。子どもたちのために、地域の人や団体・施設とともに取り組んでいることが、長く続いているコツです。

“たがさぽPress”とは?



たがさぽスタッフによるブログ。興味が湧いたらたがさぽPressへ! ＊ケータイ、スマホからご覧いただけます。



たがさぽからのお知らせ

たがさぽが企画する「一歩ふみだすきっかけ」をご紹介します



地域づくりお役立ちガイド

昨年度実施していた「高橋地区をみんなで盛り上げる会」をモデルに、「地域づくりお役立ちガイド」第2弾として「人材編」をつくりました。地域の困りごとを解決したり、魅力を高める上で力になってくれる「人材」を見つけるヒントをまとめています。たがさぽや市内公共施設に置いてあるほか、ブログからもダウンロードできますので、特に町内会や子ども会に関わる方はぜひご活用ください。



「地域づくりお役立ちガイド」人材編を発行!
たがさぽPress
2016年5月1日（日）掲載



生活の困りごとと解決をめざして、ともに考えともに歩む

2015年4月から多賀城市社会福祉課に設けられている「自立相談支援窓口」。生活に困っている方や長く失業している方、働いた経験がなく就職が不安な方々を対象に相談を行っています。窓口ができてからの1年間と、今後の取り組みについて社会福祉課の我妻朋学さんと、主任相談支援員の池下英理子さん（一般社団法人パーソナルサポートセンター所属）に伺いました。

—「自立相談支援窓口」ができるまでのいきさつを教えてください

我妻さん 窓口を開設するにあたり、生活保護を含めて生活に困っている方の状況を調べた結果、相談件数が多くなるだろうと予想しました。市としては「伴走型で手厚い支援を行い、一人でも多くの市民が自立した生活ができるように」と考えて検討した結果、高い専門性やノウハウを持った民間団体の力が必要だと考えました。そこで各団体に事業提案をいただいた中から、一般社団法人パーソナルサポートセンターにお願いすることになりました。

—この1年間で、どのような相談がありましたか

池下さん 2015年度の相談では、収入や生活費に関するものが多かったです。特徴的だと感じたのは、仕事をしていても家庭の事情で困窮状態にある方が多くいるということでした。また、高齢者の方が年金だけでは生活できないという相談もあり、家賃や携帯電話の料金などの支出の見直しを一緒に行ったりもしました。ケースにもよりますが、相談員が職場や病院などに同行して相手との間を取り持って話をしたこともありました。

また、就労支援相談に関しては、約半数を就職に結びつけることができました。主な支援として、コミュニケーション講座の開催や面接練習、履歴書作成のサポートなどを行いました。

支援窓口ができて、1ヵ所の窓口で一括して相談ができるようになり、継続的な相談を通してともに考えることで、少しずつでも生活の改善を進めるきっかけになったと思います。

—今後の取り組みで考えていることはありますか

池下さん 就労支援については、働くことに慣れてもらうために、短時間でできる仕事の提供にご協力いただける企業を探しています。現在は相談に来た方に清掃や介護の仕事を紹介することが多いですが、向き不向きもあるので、幅広く職種をおさえておきたいと考えています。

また、生活に困っている方や引きこもりの方への理解があまり進んでいないという現状があるので、地域で支えあい、ともに暮らせるような地域づくりのサポートを行っていきたいと考えています。相談に来られた方が、支援窓口や「トウインクルたがじょう」での支援と、地域の方々の見守りや声がけなどの支えによって自立し、今度は見守る側に回れるような地域にしていければと思っています。

202件

自立相談支援窓口への相談件数
-2015年度-

件数については、同一人が複数回相談しても1件とカウントしています。
(資料提供：多賀城市社会福祉課)



「トウインクルたがじょう」で開催されたコミュニケーション講座。講師の方から、自己紹介のしかたや話の聞き方、マナーなどについて実践を交えた学びができました。

お問い合わせ先

多賀城市自立相談支援窓口

場所 多賀城市役所 1 階 社会福祉課内
住所 多賀城市中央 2 丁目 1-1
電話番号 022-368-1141 (内線：681・682)
受付時間 平日 8:30 ~ 17:15

トウインクルたがじょう

東日本大震災の被災者の方々を対象に、豊かな暮らしづくりのお手伝いを目的として、生活情報の提供や地域の人が集まるお茶会や料理教室の開催、軽作業などのほか、就労に向けた支援を行っています。



住所 多賀城市東田中 2-40-32 多賀城ロジマング棟 1 階
電話番号 022-794-7510
開所時間 平日 8:30 ~ 17:15 12:00 ~ 13:00 は昼休み
土日祝日・年末年始は休み

一般社団法人 パーソナルサポートセンター (仙台市)

2011 年 3 月設立。仕事や生活上でのさまざまな悩みを抱えた人たちに伴走型の支援を行い、就労と生活再建までをサポートしています。
<http://www.personal-support.org/>

